

平成29年度第2回印西市通学区域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成30年2月1日（木）午後2時～2時40分
- 2 開催場所 印西市役所 附属等 24会議室
- 3 出席者 伊東 洋樹 委員、岸 祐尚 委員、澤根 孝之 委員
佐久間 成 委員、秋田 裕日美 委員
- 4 欠席者 内田委員
- 5 事務局 大木教育長、坂木学務課長 岡田主幹、海老原主査、櫻井主査
- 6 傍聴者 1名
- 7 議事 (1) 小倉台小学校及び木刈中学校の通学区域の変更について
(2) その他
- 8 議事録 (要点筆記)

事務局 本日はご多用のところ、当審議会の会議にお集まりいただき、ありがとうございます。

会議に先立ちまして、何点かご説明とご報告をさせていただきます。

「会議の公開と傍聴規定について」でございますが、当審議会につきましては、原則公開とさせていただきます。

また、傍聴につきましては、事務局で傍聴要領を作成しており、この傍聴要領に沿って受付しております。

なお、現時点での傍聴者は1人ですが、会議途中で傍聴の希望があった場合は、随時、入室を許可したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、「会議の録音及び会議録の署名について」でございます。

当審議会の会議につきましては、会議録を作成する都合上、録音させていただきます。

また、会議録の署名につきましては、毎回2名の委員の方をお願いしており、今回は、佐久間委員と秋田委員をお願いいたします。

なお、会議録につきましては、署名いただいた後、市役所の行政資料室への設置やホームページへの掲載により公表いたします。

会議録の公表にあたりましては、発言者の氏名を伏して行いますことを申し添えます。

それでは只今より、平成29年度第2回印西市通学区域審議会を開催いたします。

ここで、会議の開催について、ご説明とご報告をさせていただきます。

印西市通学区域審議会設置条例において、「審議会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。」と規定されております。

本日は、内田委員が欠席との連絡を受けておりますが、出席委員は、6名中5名でございますので、同条例の規定に基づく定足数に達しておりますことから、ここに会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それでは、次第2の会長あいさつ、岸会長をお願いします。

会 長 前回の審議に引続き、子どもたちのために充実した議論をしていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

事務局 それでは早速、「議事」に入りたいと思います。ここから先の進行は、岸議長にお願いします。

議 長 それでは、次第の3「議事」に入ります。

(1)「小倉台小学校及び木刈中学校の通学区域の変更について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

事務局 【平成29年度第1回印西市通学区域審議会の振返りについて説明する】

議 長 事務局からの説明が終わりました。ご意見がありましたらお願いします。

委 員 今回の通学区域の変更に伴い、内野小学校の通学路の安全対策に関する市の考えを伺います。

事務局 通学路の安全対策について、担当課は指導課となりますが、学校から危険箇所などを把握し、関係機関等と連携を図りながら、安全対策を講じているところでございます。

委 員 内野小学校の児童の7割は、千葉ニュータウン大橋（以下「橋」という。）を渡って通学しています。資料にもあるとおり、内野小学校の児童数も増加傾向にある中で、今回の通学区域の変更により、橋を渡る児童が更に増えることが予想されます。

橋の通行状況として、内野地区から千葉ニュータウン中央駅方面に向かう通勤通学者等は自転車が多く、また、戸神台地区から内野方面は内野小学校への通学児童が多く見受けられます。自転車はスピードが速いことから、昨年度までは、橋を通行する際は、1列歩行でという通学指導をしてきました。

しかし、児童数増加などに伴い1列通行は現実的ではないとの意見が保護者から多くあったため、本年度からは、車道からみて歩道の外側に寄って通学するよ

うに指導をしています。

橋の安全対策としては、歩道部のペイントが考えられますが、現在のものは10数年前に行ったもので、塗装箇所も点在し、薄くなっている状況です。

現在は、保護者や地域ボランティアの方々が協力しながら指導しているものの、保護者等が立っていない場所では、3～4列に広がってしまうこともあります。指導徹底の重要性は認識しており、今後も継続していきますが、新入生には理解できないこともありますので、歩道部への歩行部分と自転車通行部分を区分した路面塗装などをお願いしたいと考えています。

今後の児童数増加に伴い、より自転車との接触の危険性が高まることから、橋の安全対策について、教育委員会の考え方を伺います。

事務局 学務課としても、朝の通学状況を確認しております。保護者や地域の皆様が橋に立って通学指導をしている姿も拝見させていただきました。

今後の安全対策としては、橋の歩道部へのグリーンベルトと歩行者優先の路面表示及び注意看板の設置を考えています。順調に工事が進めば、年度内に完成する旨を関係機関から聞いています。

委員 小倉台小学校区についても、自転車と児童が交錯する危険箇所があるが、今後、具体的対応策などはあるのか。

事務局 小倉台小学校区における自転車と信号待ちをしている児童が交錯する交差点については、以前から危険箇所として把握・認識しており、これまでも関係機関が現地確認などを行いながら、安全対策を図ってきた経緯がございます。現時点での具体的な対応等は確認しておりませんが、引き続き保護者や地域の皆様と連携を図りながら、通学路の安全対策に努めてまいります。

議長 その他、何かございますか。

無いようですので、続いて、次第（１）の ①「答申（案）」を議題とします。
事務局の説明をお願いします。

事務局 【別添資料に基づき、答申（案）の内容について説明する】

議長 事務局からの説明が終わりました。答申（案）に関するご意見がありましたらお願いします。

委員 児童との交錯という部分で、対象地の南側に共同住宅が建設される場合と、北

側に建設される場合で導線が変わることが考えられるが、建設計画はどのようなになっているのか。

事務局 対象地北側の約半分に共同住宅、南側の約半分が店舗の建設が計画されています。

委員 南側の店舗については、車輛の出入り口と通学の観点から、関係機関と連携を図りながら安全対策を進めていく必要があると考えます。

次に本答申の通学区域の変更については、例えば20年～30年先までの考えがあるのか。見通しがあるなら伺いたい。

事務局 今回の通学区域の変更につきまして、20年先、30年先がどうなっているのかは予測が難しいことから、現時点では時限を決めておりません。これからも通学区域内の実情をみながら児童通学の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

議長 他に何かありますでしょうか。

他にご意見がないようですので、答申（案）を本審議会からの答申としてよろしいか。

委員 異議なし。

議長 異議がありませんので、これをもって本審議会における印西市教育委員会への答申とします。

委員の皆様方には、終始熱心なご審議を賜り、答申をまとめることができました。ありがとうございました。

議長 続きまして、(2)「その他」を議題とします。事務局から何かありますか。

事務局 特にありません。

議長 本日の議題につきましては、全て終了しました。進行を事務局に戻します。

事務局 ありがとうございました。

ここで、答申の準備をいたしますので、暫時休憩とさせていただきます。

【暫時休憩】

事務局 会議を再開します。次第４の答申に入ります。
岸会長から、教育長に答申をお願いします。

【会長から教育長に答申】

事務局 ありがとうございました。
ここで、教育長よりお礼のご挨拶を申し上げます。

教育長 先ほど、岸会長より、「印西市立小学校及び中学校の通学区域について」の答申をいただきました。この場をお借りし、お礼を申し上げさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、公私ともにご多用のところ、当審議会の会議にご出席をいただき、慎重なるご審議を賜りまして、誠にありがとうございました。

教育委員会といたしましては、今後も関係機関と連携を図りながら児童生徒の通学の安全確保に向け、努めてまいりたいと考えております。

今後とも本市の教育行政にご理解とご協力を賜りたく、お願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申しあげまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

事務局 次第５その他、事務連絡をさせていただきます。
【委員報酬と今後のスケジュールについて説明する】

事務局 それでは、以上をもちまして、平成２９年度第２回印西市通学区域審議会を終了させていただきます。

長時間にわたり、ありがとうございました。

会議資料

- ・ 答申（案）

【第 1 回会議提示資料を使用】

会議資料

- ・ 資料 1 位置図及び通学区域（内野小学校・小倉台小学校）
- ・ 資料 2 児童生徒数及び学級数の推計
- ・ 資料 3 対象地から各小学校までの距離
- ・ 参考資料 1 印西市通学区域審議会委員名簿
- ・ 参考資料 2 印西市通学区域審議会設置条例
- ・ 参考資料 3 諮問書（写）

平成 29 年度第 2 回印西市通学区域審議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成 30 年 2 月 26 日

委 員 佐久間 成

委 員 秋田 裕日美